

やすらぎ

医療法人社団 芙蓉会
ふよう病院
千葉芙蓉病院
きゃらの樹ケアセンター



芙蓉会社内報

令和元年12月号

芙蓉会

理事長挨拶

医療法人社団 芙蓉会 理事長 四ヶ所 大

令和元年も残すところ僅かとなりました。9月に発生した台風では、千葉県君津市で運営する当法人の施設、事業所も被災地し、現場スタッフの奮闘と東京都町田市で運営するスタッフの協力体制もあり、早期に復旧できたことに感謝申し上げます。しかしながら、未だ復旧されていない家屋等も多数あり、被災した方々には改めてお見舞い申し上げます。

ここ数年、度々発生する自然災害の理由の一つに、温暖化の影響があるとの事。海面の温度が上昇する事により、異常気象が発生するというこの状況下を改めて認識させられた年でもありました。地球温暖化は、世界中で共通した問題ですが、未来志向の考え方が無い限り、解決しない大きなテーマです。多くの理解者が増えることを祈るばかりです。

町田市のふよう病院では、今年の夏頃から介護療養病床の転換に向けた取り組みを開始しております。12月に入ってから、ご利用者家族向けの説明会を合計4回実施。私も説明する側の一人として対応しましたが、転換に対するご理解をいただき安堵しております。現在、B2病棟を介護療養病床から医療療養病床に。B3、C3病棟を介護療養病床から介護医療院に転換を予定しております。



この転換については、十数年にわたる課題として取り組んで参りました。当初は、転換型老健が主な転換先として期待される時期もありましたが、転換政策は失敗したとの認識です。最大の理由は、介護療養病床のご利用者が減らなかったという既成事実。2024年3月まで転換期限を設定した事からも窺えると思います。介護医療院という新しいタイプの施設を国は設定しましたが、何とか辿り着いたと言った方が適当ではないでしょうか。

令和2年は、介護療養病床の集大成として、病床転換の取り組みを更に加速し、地域に根差し、ご利用者に満足して頂けるサービス提供を実現して参ります。本年も引き続きよろしくお願い致します。

「老人は国の宝」

医療法人社団 芙蓉会 (事業所一覧)



- ・ふよう病院
- ・芙蓉ミオ・ファミリア町田
- ・グループホームあおぞら
- ・デイサービスふれあいルーム
- ・千葉芙蓉病院
- ・きゃらの樹ケアセンター
- ・千葉芙蓉ハーモニー
- ・千葉芙蓉ステーション

院内職員研修会報告 11 月開催

必修研修 医療安全②「医薬品安全管理研修会：異なる視点から考える医療安全」

発行者 ふよう病院 一ノ瀬 薬局長

医薬品の安全管理について、「インスリンの過量事故」を取り上げ、事故を防ぐにはどうすべきかを考える際に役立つものとして、新しく提唱されている「Safety-I と Safety-II」の定義を紹介した。Safety-I とは、人はエラーをする危ない存在とし、うまくいかなかった失敗の原因を探り、失敗を取り除くという従来型の安全対策であるのに対し、Safety-II とは、仕事がかよくいくのは、人々のパフォーマンスのおかげ

であり、行動の先を予期し、最悪の事態を避け、最悪の事態に備えておくことが大切で、成功を増大させる安全対策であるとのこと。失敗しないようにと取り組むのとは逆に、うまくいくようにすること、うまくいくことを広めることが大切というこの考え方は、医療安全だけでなく、他の仕事や分野にも適用できるものであり、「参考になった」という意見が多く寄せられた。

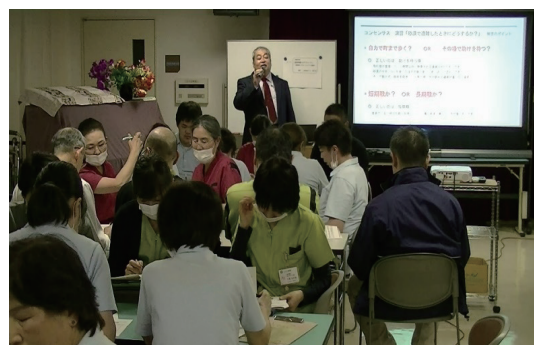


院内職員研修会報告 12 月開催

必修研修 医療倫理研修**「倫理問題へのアプローチ」～組織倫理におけるコンセンサスの重要性～**

発行者 川原経営総合センター 長岡 様

「倫理って何だろう。倫理を守るってどういうこと」をテーマに、組織（法人）倫理とは、物事を職員全員が一致した見解で組織的に動かしていく事であり、その組織に属する人間に求められる特別な倫理というものもある。ダメなものダメとしても、ルールを逸脱してしまった時、相手がなぜそう思い行動したのかを理解することが重要であり、違う価値観の人同士であっても、コンセンサス（合意、総意）での意思決定に対して納得度が高く、その他の手法である多数決や、独裁的意思決定に比べて様々な面で有用となることを説明された。



11 月院内研修会

医療安全

発行者 医療安全管理委員会（安全対策）副委員長 鳥海師長

医療事故はあってはならないことで、治療の現場から事故が無くなることが目標だが、無縁というわけにいかない現状にある。大きな事故を起こさないため、気づきや危険を予測した対応、再発防止の取り組み等が課題。

情報を共有し、再発防止につなげていくために、
①インシデントレポート、アクシデントレポート（事故報告書）を作成するよう職員を指導。

②レポートを集計し振り返る。

忘れ防止のための工夫、職員同士の協力、ダブルチェックの徹底

③患者様の氏名をフルネームで確認

④正しい手順で実施する習慣を身につける

⑤疑問を感じたら確認する

などの防止策が発表された。今後も、患者様の安全の為、各自が認識を高めていきたい。

12 月院内研修会

ハラスメントについて

発行者 社会保険労務士 内藤剛識先生

昨今、ハラスメントに関しての報道がしばしば聞かれる。今回はパワーハラスメントについてお聞きした。

パワーハラスメントとは、同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係等の職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為をいう。

なぜパワーハラスメントは生まれるのか。気持ちや体力の余裕がない、ストレスの発散、持って生まれた性格、育ってきた環境、権限（権力）の一極集中など、が考えられる。特に医療・介護業界は、ちょっとしたミスも許されない多忙さがあつたり、専門家集団のためプライドが高かったり、職種における階級制度が存在したりすることが原因にもなる。

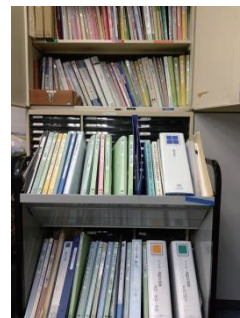
グループワークで、ハラスメントの予兆となり得る「不適切な言動」について話し合い、普段の仕事を振り返り、パワーハラスメントをなくすための対策を考えた。指導する側としても指導スタイル・方法を考えるきっかけとなった。



きゃらの樹ケアセンター イベント報告

4年に一度の実地指導終わる

12月19日に介護保険法で規定された、定期の実地指導（千葉県の実地指導）が君津保健所により行われました。前回指導からさまざまな法律の改正が行われ、それに沿った運営を行ってまいりましたが、結果は、良好な施設運営、処遇が行われているとの評価をいただきました。今後もこれに慢心することなく、ご利用者ファーストで取り組んで参りたいと思います。



最後のボランティア訪問 松丘中生徒会

令和2年3月に閉校となる地元の松丘中学校から最後のボランティア訪問を受けました。来年からは2つ先の学区にある小櫃（おびつ）中学校に統合されます。歴史のある学校だけに残

念でなりませんが、1学年に数人しかいない現状ではしかたありません。この訪問だけは続けていただければとご利用者、職員共々願っております。

